

実験日	2023 年 07 月 05 日	
	実験開始時刻	実験終了時刻
時刻	12:57	15:01
天候	雨	雨
気温	23.0[°C]	23.2[°C]
湿度	75[%]	75[%]
気圧	998.0[hPa]	998.1[hPa]

(気温、湿度、気圧が不明の場合は不明と記す)

学生番号	22122003	実験日	2023/07/05
表紙	時刻・天候等(表), 実験題目, 報告者・共同実験者名, ホッチキス綴じ		
構成	目的, 理論, 方法, データ, 計算, 結果, 考察		
理論	理論式, 式の説明, 式の導出, 説明不足, 論理性, 単位		
方法	方法が違う, 欠落, 図, 表, 説明不足		
測定	計測ミス, 箇所, 5回以上, 器具(選択・使用法・目分量まで)		
データ	生データ(表), 有効数字, 単位欠落, 単位間違い		
表	番号, タイトル, 記載位置, ページ内, 罫線, 桁揃え, 0, 単位		
計算	理論式, 途中計算, 誤差計算, 最小二乗法, 価値平均, 計算ミス, 単位		
有効数字	計算時考慮, 四捨五入, 誤差1桁, 最確値, 数値表記, 指数表示		
グラフ・図	番号, タイトル, 記載位置, 軸の罫線, 軸名・単位, 目盛り線と値		
グラフの線	測定点(プロット), 実験式(直線・曲線), 線の区別(実線・破線・色)		
結果	まとめて表示する, 実験目的との対応, 単位		
考 察	どのようなことが結論づけできるか		
	結果の比較検討(公称値, 他の測定値, 予測値)		
	誤差の評価(原因, 定性的, 定量的, なし, 少ない, あと一息)		
	実験方法の改良点, 改良により定量的に期待できること		
その他	結果からどのような理解が得られるか		
	未完成, 追加実験, 形状から計算, 理解不足, 出展記載		
	提出		
	返却		

実験題目

小球落下法(Falling Ball)による
液体の粘性係数の測定

	課程名	学生番号	氏 名
実験報告者	情報工学課程	22122003	阿波野 隼英
		22122001	AHMAD ZAID BIN ROSLI
共同実験者	情報工学課程	22122002	新井 香澄

1 目的

小球落下法により、高粘度の液体の粘性係数を求めること。

2 理論

算術平均の確率誤差

$$r_a = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{[v^2]}{n(n-1)}} \quad (1)$$

$$[v^2] = \sum_{i=1}^n v_i^2 = \sum_{i=1}^n (q_i - \bar{q})^2 \quad (2)$$

$$Q = F(q_1, q_2, \dots) \quad (3)$$

Q : q_1, q_2, \dots の誤差をそれぞれ $r : r_1, r_2, \dots$ として,

$$r^2 = \left(\frac{\partial F}{\partial q_1} r_1 \right)^2 + \left(\frac{\partial F}{\partial q_2} r_2 \right)^2 + \dots \quad (4)$$

q_i : 測定値, n : 測定回数, \bar{q} : 平均値

価値平均

確率誤差の違う測定値を平均する場合.

同一物理量を種々の方法で測定して, $X_i \pm E_i (i = 1, 2, 3, \dots)$ を得た時,
その最確値 X_0 確率誤差 E_0 は次のようにして求められる.

誤差の分布は, $f(x) = \frac{h}{\sqrt{\pi}} \exp(-h^2 x^2)$ で表される. $h_i = \frac{1}{E_i}, x_i = X_0 - X_i$ とすると

x_i の確率は, $f(x_i) = \frac{h_i}{\sqrt{\pi}} \exp(-h_i^2 (X_0 - X_i)^2)$

したがって, これらの誤差が同時に起こる確率は, $f(x_1) \cdot f(x_2) \cdot \dots \cdot f(x_n) = \frac{h_1 h_2 \dots h_n}{\sqrt{\pi^n}} \exp(-\sum_i h_i^2 (X_0 - X_i)^2)$.

これが最大となるには, $\sum_i h_i^2 (X_0 - X_i)^2$ が最小となるので,

$$\frac{\partial \sum_i h_i^2 (X_0 - X_i)^2}{\partial X_0} = 0 \implies \frac{\partial (h_1^2 (X_0 - X_1)^2 + h_2^2 (X_0 - X_2)^2 + \dots + h_n^2 (X_0 - X_n)^2)}{\partial X_0} = 0$$

$$\iff 2h_1^2 (X_0 - X_1) + 2h_2^2 (X_0 - X_2) + \dots + 2h_n^2 (X_0 - X_n) = 0$$

$$\Longleftrightarrow (h_1^2 + h_2^2 + \dots + h_n^2)X_0 - (h_1^2X_1 + h_2^2X_2 + \dots + h_n^2X_n) = 0$$

$$\therefore X_0 = \frac{h_1^2X_1 + h_2^2X_2 + \dots + h_n^2X_n}{h_1^2 + h_2^2 + \dots + h_n^2} = \frac{\sum_i^n h_i^2 X_i}{\sum_i^n h_i^2}$$

$h_i = \frac{1}{E_i}$ より, 最確値 X_0 は,

$$X_0 = \frac{\sum_i^n \left(\frac{X_i}{E_i^2} \right)}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)} \quad (5)$$

となる.

また, 確率誤差 E_0 は誤差伝播の法則を用いて

$$\begin{aligned} E_0^2 &= \sum_i^n \left(\frac{\partial X_0}{\partial X_i} E_i \right)^2 = \left(\frac{\partial X_0}{\partial X_1} E_1 \right)^2 + \left(\frac{\partial X_0}{\partial X_2} E_2 \right)^2 + \dots + \left(\frac{\partial X_0}{\partial X_n} E_n \right)^2 \\ &= \left(\frac{\left(\frac{1}{E_1^2} \right)}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)} E_1 \right)^2 + \left(\frac{\left(\frac{1}{E_2^2} \right)}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)} E_2 \right)^2 + \dots + \left(\frac{\left(\frac{1}{E_n^2} \right)}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)} E_n \right)^2 \\ &= \frac{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)}{\left(\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right) \right)^2} = \frac{1}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)} \end{aligned}$$

したがって, 確率誤差 E_0 は,

$$E_0 = \pm \sqrt{\frac{1}{\sum_i^n \left(\frac{1}{E_i^2} \right)}} \quad (6)$$

粘性係数の導出

粘性係数 η , 密度 ρ なる液体中を半径 r , 密度 σ なる球が速度 ν で運動する場合,

球の受ける粘性抵抗力 (上向き) f は **stokes** の式に従い, r, η, ν に比例する.

即ち, $f = 6\pi r \eta \nu$ となる. 今, 液体中を球が重力によって落下するときの力 (下向き) f' は,

浮力を考慮すれば $f' = \frac{4}{3}\pi r^3(\sigma - \rho)g$ (g : 重力加速度) となり, 球が終速度で落下している時は

これらの 2 力は釣り合っている. 即ち $6\pi r \eta \nu = \frac{4}{3}\pi r^3(\sigma - \rho)g$ となる.

したがって粘性係数 η は,

$$\eta = \frac{2}{9}g \frac{r^2(\sigma - \rho)}{\nu} \quad \left[\frac{g}{cm \cdot sec} \right] \quad (7)$$

なお、正確に粘性係数を求めるためには、管壁および管端による補正を入れるべきで、管の半径を R , 測定距離を H とすれば、補正後の粘性係数 η' の式は以下となる。

$$\eta' = \frac{2}{9}g \frac{r^2(\sigma - \rho)}{\nu \left(1 + 2.4 \frac{r}{R}\right) \left(1 + 3.3 \frac{r}{H}\right)} \approx \frac{2}{9}g \frac{r^2(\sigma - \rho)}{\nu} \left(1 - 2.4 \frac{r}{R} - 3.3 \frac{r}{H}\right) \quad \left[\frac{g}{cm \cdot sec} \right] \quad (8)$$

3 実験方法

1. 小球 5 個の各々の直径 $D=2r$ を 5 回ずつシックスネスゲージで測定し、小球を区別するために番号付けをする。例えば $D_1 \dots D_5$ とする。ゲージは目分量を含むと **0.000mm** まで読める。外側の目盛板の長針が一周すると **1.000mm** となり内側の目盛板の短針が「1」を指す。例えば小球の直径 D が約 1mm の場合、零点は **0.*** mm** となり小球を挟むと **1.*** mm** となり、小球の直径 $D = 1.*** \text{ mm} - 0.*** \text{ mm}$ となる。必ず内側の目盛板の数値を忘れずに読む。
2. 小球をピンセットで挟み、メスシリンダ内の液体試料の液面近くで放ち液中を落下させる。小球が一定速度を得る 160ml の目盛り線から 40ml の目盛り線を通過する時間をストップウォッチで測定する。
3. この小球をネットスプーンですくい上げて同じ測定を 1 つの小球に対して 5 度行う。
4. 2. と 3. を 5 個の小球につき順次行う。これは半径の異なる小球の落下速度 v が異なるためである。
5. 時間測定を行った目盛り線の間の距離をノギスで 5 回測定して、各小球の落下速度 $v_1 \dots v_5$ を算出する。
6. 液体試料に直接 **hydrometer** を挿入して液体試料の密度 ρ を求める。この時 **hydrometer** と管壁との摩擦の影響を除くために **hydrometer** を静かに放ち液中を沈下して静止した時の液面の数値を読み、その静止した位置から僅かに **hydrometer** を押し沈めて浮上して静止した時の液面の数値とを平均する。これを 5 セット行う。
7. 測定した小球 5 個をなくさないように濾紙で拭き、5 個まとめた質量 M を電子天秤で 5 回測定する。
8. 半径から 5 個の小球の全体積 $V = \frac{4}{3}\pi(r_1^3 + r_2^3 + r_3^3 + r_4^3 + r_5^3)$ を求めて、これで 7. で求めた全質量 M を割ると小球の平均密度 $\sigma = \frac{M}{V}$ が求まる。
9. 以上の測定より、液体試料の測定中の液温における粘性係数 η は式 (1) で求められる。忘れずにアルコール棒温度計で液温を測定しておくこと。
10. 各小球ごとに粘性係数 η (最確値と確率誤差) を求めて、5 つの粘性係数の η を価値平均を使って 1 つの粘性係数 η にする。

※ 小球は測定中紛失しないように細心の注意を払う。

4 データ処理・結果

表 1 $r_1(D_1)$ の測定値

n	Zero 点 Z[mm]	直径 D_1 [mm]	半径 $r_1 = (D_1 - Z)/2$ [mm]	v_{r_1} [mm]	$v_{r_1}^2 \times 10^4$ [mm ²]
1	0.001	1.153	0.5760	0.0026	0.067600
2	-0.001	1.162	0.5815	0.0081	0.656100
3	-0.001	1.150	0.5755	0.0021	0.044100
4	0.009	1.151	0.5710	-0.0024	0.057600
5	0.006	1.132	0.5630	-0.0104	1.081600
sum			2.8670	0.0000	1.9070000
ave			0.5734		

したがって, r_1 の最確値は $r_1 = 0.5734[mm] = 0.05734[cm]$.

確率誤差 r_{r_1} は, 理論 (1) より, $r_{r_1} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{1.907000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.002083[mm] = \pm 0.0002083[cm]$.

表 2 $r_2(D_2)$ の測定値

n	Zero 点 Z[mm]	直径 D_2 [mm]	半径 $r_2 = (D_2 - Z)/2$ [mm]	v_{r_2} [mm]	$v_{r_2}^2 \times 10^4$ [mm ²]
1	0.000	1.379	0.6895	-0.0205	4.202500
2	-0.001	1.399	0.7000	-0.0100	1.000000
3	0.001	1.471	0.7350	0.0250	6.250000
4	-0.001	1.472	0.7365	0.0265	7.022500
5	0.000	1.378	0.6890	-0.0210	4.410000
sum			3.5500	0.0000	22.885000
ave			0.7100		

したがって, r_2 の最確値は $r_2 = 0.7100[mm] = 0.07100[cm]$.

確率誤差 r_{r_2} は, 理論 (1) より, $r_{r_2} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{22.88500 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.007215[mm] = \pm 0.0007215[cm]$.

表 3 $r_3(D_3)$ の測定値

n	Zero 点 Z[mm]	直径 D_3 [mm]	半径 $r_3 = (D_3 - Z)/2$ [mm]	v_{r_3} [mm]	$v_{r_3}^2 \times 10^4$ [mm ²]
1	0.000	1.097	0.549	0.0005	0.002500
2	-0.001	1.091	0.546	-0.0020	0.040000
3	0.003	1.094	0.546	-0.0025	0.062500
4	-0.001	1.100	0.551	0.0025	0.062500
5	-0.001	1.098	0.550	0.0015	0.022500
sum			2.7400	0.0000	0.190000
ave			0.5480		

したがって, r_3 の最確値は $r_3 = 0.5480[mm] = 0.05480[cm]$.

確率誤差 r_{r_3} は, 理論 (1) より, $r_{r_3} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{0.190000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.000657[mm] = \pm 0.0000657[cm]$.

表 4 $r_4(D_4)$ の測定値

n	Zero 点 Z[mm]	直径 D_4 [mm]	半径 $r_4 = (D_4 - Z)/2$ [mm]	v_{r_4} [mm]	$v_{r_4}^2 \times 10^4 [mm^2]$
1	0.001	1.159	0.5790	0.0021	0.044100
2	-0.001	1.142	0.5715	-0.0054	0.291600
3	-0.001	1.154	0.5775	0.0006	0.003600
4	0.000	1.152	0.5760	-0.0009	0.008100
5	-0.001	1.160	0.5805	0.0036	0.129600
sum			2.8845	0.0000	0.477000
ave			0.5769		

したがって, r_4 の最確値は $r_4 = 0.5769[mm] = 0.05769[cm]$.

確率誤差 r_{r_4} は, 理論 (1) より, $r_{r_4} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{0.477000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.001042[mm] = \pm 0.0001042[cm]$.

表 5 $r_5(D_5)$ の測定値

n	Zero 点 Z[mm]	直径 D_5 [mm]	半径 $r_5 = (D_5 - Z)/2$ [mm]	v_{r_5} [mm]	$v_{r_5}^2 \times 10^4 [mm^2]$
1	0.000	1.184	0.5920	0.0049	0.240100
2	0.000	1.171	0.5855	-0.0016	0.025600
3	0.000	1.170	0.5850	-0.0021	0.044100
4	0.000	1.183	0.5915	0.0044	0.193600
5	0.003	1.166	0.5815	-0.0056	0.313600
sum			2.9355	0.0000	0.817000
ave			0.5871		

したがって, r_5 の最確値は $r_5 = 0.5871[mm] = 0.05871[cm]$.

確率誤差 r_{r_5} は, 理論 (1) より, $r_{r_5} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{0.817000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.001363[mm] = \pm 0.0001363[cm]$.

表 6 $t_1 \sim t_5$ の測定値

n	$t_1[sec]$	$t_2[sec]$	$t_3[sec]$	$t_4[sec]$	$t_5[sec]$
1	14.44	9.56	15.77	14.38	13.70
2	14.47	9.53	15.80	14.67	13.60
3	14.34	9.59	15.59	14.12	13.90
4	14.39	9.50	15.70	14.22	13.69
5	14.11	9.60	15.70	14.26	13.65
sum	71.75	47.78	78.56	71.65	68.54
ave	14.35	9.56	15.71	14.33	13.71

したがって $t_1 \sim t_5$ の最確値は,

$$t_1 = 14.35[sec].$$

$$t_2 = 9.56[sec].$$

$$t_3 = 15.71[sec].$$

$$t_4 = 14.33[sec].$$

$$t_5 = 13.71[sec].$$

表7 $t_1 \sim t_5$ の残差

n	$v_{t_1}[sec]$	$v_{t_2}[sec]$	$v_{t_3}[sec]$	$v_{t_4}[sec]$	$v_{t_5}[sec]$
1	0.090	0.004	0.058	0.050	-0.008
2	0.120	-0.026	0.088	0.340	-0.108
3	-0.010	0.034	-0.122	-0.210	0.192
4	0.040	-0.056	-0.012	-0.110	-0.018
5	-0.240	0.044	-0.012	-0.070	-0.058
sum	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

表8 $t_1 \sim t_5$ の残差の2乗

n	$v_{t_1}^2[sec^2]$	$v_{t_2}^2[sec^2]$	$v_{t_3}^2[sec^2]$	$v_{t_4}^2[sec^2]$	$v_{t_5}^2[sec^2]$
1	81.000	0.160	33.640	25.000	0.640
2	144.000	6.760	77.440	1156.000	116.640
3	1.000	11.560	148.840	441.000	368.640
4	16.000	31.360	1.440	121.000	3.240
5	576.000	19.360	1.440	49.000	33.640
sum	818.000	69.20	262.80	1767.00	522.80

確率誤差 $r_{t_1} \sim r_{t_5}$ は, 理論 (1) より,

$$r_{t_1} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{818.000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.0431[sec].$$

$$r_{t_2} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{69.20 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.0125[sec].$$

$$r_{t_3} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{262.80 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.0245[sec].$$

$$r_{t_4} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{1767.00 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.0634[sec].$$

$$r_{t_5} = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{522.80 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.0345[sec].$$

表 9 距離 H の測定値

n	$H[mm]$	$v_H[mm]$	$v_H^2[mm^2]$
1	112.60	-0.240	576.000000
2	112.75	-0.090	81.000000
3	112.75	-0.090	81.000000
4	113.10	0.260	676.000000
5	113.00	0.160	256.000000
sum	564.20	0.000	1670.000000
ave	112.84		

したがって, H の最確値は $H = 112.84[mm] = 11.284[cm]$.

確率誤差 r_H は, 理論 (1) より, $r_H = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{1670.000000 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.061635[mm] = \pm 0.0061635[cm]$.

表 10 小球 5 個の質量 M の測定値

n	$M[g]$	$v_M[g]$	$v_M^2[g^2]$
1	0.01328	-0.00022	0.048400
2	0.01343	-0.00007	0.004900
3	0.01350	0.00000	0.000000
4	0.01361	0.00011	0.012100
5	0.01368	0.00018	0.032400
sum	0.06750	0.05400	0.097800
ave	0.01350		

したがって, M の最確値は $M = 0.01350[g]$.

確率誤差 r_M は, 理論 (1) より, $r_M = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{0.097800 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.00004717[g]$.

表 11 液体の密度 ρ の測定値

n	浮上時 $\rho_1[g/cm^3]$	沈下時 $\rho_2[g/cm^3]$	$\rho((\rho_1 + \rho_2)/2)[g/cm^3]$	$v_\rho[g/cm^3]$	$v_\rho^2[g^2/cm^6]$
1	0.8770	0.8761	0.8766	0.0002	0.000625
2	0.8769	0.8760	0.8765	0.0001	0.000225
3	0.8769	0.8760	0.8765	0.0001	0.000225
4	0.8768	0.8758	0.8763	0.0000	0.000000
5	0.8760	0.8755	0.8758	-0.0005	0.003025
sum			4.3815	0.0000	0.004100
ave			0.8763		

したがって, ρ の最確値は $M = 0.8763[g/cm^3]$.

確率誤差 r_ρ は, 理論 (1) より, $r_\rho = \pm 0.6745 \sqrt{\frac{0.004100 \times 10^{-4}}{5 \times 4}} = \pm 0.00009657370307[g/cm^3]$.

物体の密度

まず、体積 V を求める. $V = \frac{4}{3}\pi(r_1^3 + r_2^3 + r_3^3 + r_4^3 + r_5^3)$ より,

V の最確値は $V = \frac{4}{3}\pi(0.05734^3 + 0.07100^3 + 0.05480^3 + 0.05769^3 + 0.05871^3) = 0.004630158874[cm^3]$.

確率誤差 r_V は, $\frac{\partial V}{\partial r_i} = 4\pi r_i^2$ より,

$$r_V^2 = \sum_{n=1}^5 \left(\frac{\partial V}{\partial r_i} r_{r_i} \right)^2 = 16\pi^2 \sum_{n=1}^5 (r_i^2 r_{r_i})^2$$

$$= 16\pi^2((0.000006847904261)^2 + (0.00003637132411)^2 + (0.000001974262396)^2 + (0.000003466787513)^2 + (0.000004698964297)^2)$$

$$= 0.0000002223047422[cm^6]$$

$$\therefore r_V = \pm 0.0004714920383[cm^3].$$

物体の密度 σ を求める. $\sigma = \frac{M}{V}$ より,

$$\text{最確値 } \sigma \text{ は } \sigma = \frac{0.01350}{0.004630158874} = 2.91566669[g/cm^3].$$

確率誤差 r_σ は, $\frac{\partial \sigma}{\partial M} = \frac{1}{V}$, $\frac{\partial \sigma}{\partial V} = -\frac{M}{V^2} = -\frac{\sigma}{V}$ より,

$$r_\sigma^2 = \left(\frac{\partial \sigma}{\partial M} r_M \right)^2 + \left(\frac{\partial \sigma}{\partial V} r_V \right)^2 = (0.01018686358)^2 + (0.2969042031)^2 = 0.08825587802[g^2/cm^6]$$

$$\therefore r_\sigma = \pm 0.2970789087[g/cm^3].$$

落下速度

各小球の落下速度 $\nu_1 \sim \nu_5$ の最確値および確率誤差を求める.

$\nu = \frac{H}{t}$ より, $\frac{\partial \nu}{\partial H} = \frac{1}{t}$, $\frac{\partial \nu}{\partial t} = -\frac{H}{t^2} = -\frac{\nu}{t}$. これを用いて, $\nu_1 \sim \nu_5$ の最確値および確率誤差を求める.

$$\nu_1 = \frac{H}{t_1} = \frac{11.2840}{14.35} = 0.7863414634[cm/sec].$$

$$\nu_2 = \frac{H}{t_2} = \frac{11.2840}{9.56} = 1.180828799[cm/sec].$$

$$\nu_3 = \frac{H}{t_3} = \frac{11.2840}{15.71} = 0.7181771894[cm/sec].$$

$$\nu_4 = \frac{H}{t_4} = \frac{11.2840}{14.33} = 0.7874389393[cm/sec].$$

$$\nu_5 = \frac{H}{t_5} = \frac{11.2840}{13.71} = 0.8231689524[cm/sec].$$

$$r_{\nu_1}^2 = \left(\frac{\partial \nu_1}{\partial H} r_H \right)^2 + \left(\frac{\partial \nu_1}{\partial t_1} r_{t_1} \right)^2 = (0.004295100109)^2 + (0.002363757301)^2 = 0.00002403523352[(cm/sec)^2].$$

$$\therefore r_{\nu_1} = 0.004902574173[cm/sec].$$

$$r_{\nu_2}^2 = \left(\frac{\partial \nu_2}{\partial H} r_H\right)^2 + \left(\frac{\partial \nu_2}{\partial t_2} r_{t_2}\right)^2 = (0.006449841624)^2 + (0.001550353731)^2 = 0.00004400405367[(cm/sec)^2].$$

$$\therefore r_{\nu_2} = 0.00663355513[cm/sec].$$

$$r_{\nu_3}^2 = \left(\frac{\partial \nu_3}{\partial H} r_H\right)^2 + \left(\frac{\partial \nu_3}{\partial t_3} r_{t_3}\right)^2 = (0.003922777913)^2 + (0.001117582965)^2 = 0.00001663717823[(cm/sec)^2].$$

$$\therefore r_{\nu_3} = 0.004078869725[cm/sec].$$

$$r_{\nu_4}^2 = \left(\frac{\partial \nu_4}{\partial H} r_H\right)^2 + \left(\frac{\partial \nu_4}{\partial t_4} r_{t_4}\right)^2 = (0.004301094666)^2 + (0.003483821761)^2 = 0.00003063642939[(cm/sec)^2].$$

$$\therefore r_{\nu_4} = 0.005535018463[cm/sec].$$

$$r_{\nu_5}^2 = \left(\frac{\partial \nu_5}{\partial H} r_H\right)^2 + \left(\frac{\partial \nu_5}{\partial t_5} r_{t_5}\right)^2 = (0.004496256679)^2 + (0.002070854717)^2 = 0.00002450476339[(cm/sec)^2].$$

$$\therefore r_{\nu_5} = 0.00495022862[cm/sec].$$

粘性係数

上記の $\nu_1 \sim \nu_5$ に対して、それぞれ粘性係数 $\eta_1 \sim \eta_5$ の最確値および確率誤差を求める。

理論 (7) より,

$$\eta_1 = \frac{r_1^2(\sigma - \rho)}{\nu_1} = 1.856451736[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\eta_2 = \frac{r_2^2(\sigma - \rho)}{\nu_2} = 1.895436429[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\eta_3 = \frac{r_3^2(\sigma - \rho)}{\nu_3} = 1.856559927[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\eta_4 = \frac{r_4^2(\sigma - \rho)}{\nu_4} = 1.876565177[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\eta_5 = \frac{r_5^2(\sigma - \rho)}{\nu_5} = 1.859150900[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\text{また, } \frac{\partial \eta}{\partial r} = \frac{4}{9}g \frac{r(\sigma - \rho)}{\nu}, \frac{\partial \eta}{\partial \nu} = -\frac{2}{9}g \frac{r^2(\sigma - \rho)}{\nu^2}, \frac{\partial \eta}{\partial \sigma} = \frac{2}{9}g \frac{r^2}{\nu}, \frac{\partial \eta}{\partial \rho} = -\frac{2}{9}g \frac{r^2}{\nu} \text{ より,}$$

$$r_{\eta_1}^2 = \left(\frac{\partial \eta_1}{\partial r_1} r_{r_1}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_1}{\partial \nu_1} r_{\nu_1}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_1}{\partial \sigma} r_{\sigma}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_1}{\partial \rho} r_{\rho}\right)^2$$

$$= (0.1348646944)^2 + (0.0115743513)^2 + (0.270433296)^2 + (0.00008791181085)^2$$

$$= 0.09145662674[(g/(cm \cdot sec))^2].$$

$$\therefore r_{\eta_1} = 0.302417967[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\begin{aligned}
r_{\eta_2}^2 &= \left(\frac{\partial \eta_2}{\partial r_2} r_{r_2}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_2}{\partial \nu_2} r_{\nu_2}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_2}{\partial \sigma} r_{\sigma}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_2}{\partial \rho} r_{\rho}\right)^2 \\
&= (0.3852328243)^2 + (0.0106480144)^2 + (0.2761122796)^2 + (0.00008975792129)^2 \\
&= 0.2247557081[(g/(cm \cdot sec))^2].
\end{aligned}$$

$$\therefore r_{\eta_2} = 0.4740840729[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\begin{aligned}
r_{\eta_3}^2 &= \left(\frac{\partial \eta_3}{\partial r_3} r_{r_3}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_3}{\partial \nu_3} r_{\nu_3}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_3}{\partial \sigma} r_{\sigma}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_3}{\partial \rho} r_{\rho}\right)^2 \\
&= (0.04454532849)^2 + (0.01054428655)^2 + (0.2704490564)^2 + (0.00008791693418)^2 \\
&= 0.07523816809[(g/(cm \cdot sec))^2].
\end{aligned}$$

$$\therefore r_{\eta_3} = 0.2742957675[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\begin{aligned}
r_{\eta_4}^2 &= \left(\frac{\partial \eta_4}{\partial r_4} r_{r_4}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_4}{\partial \nu_4} r_{\nu_4}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_4}{\partial \sigma} r_{\sigma}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_4}{\partial \rho} r_{\rho}\right)^2 \\
&= (0.0677671553)^2 + (0.01319063915)^2 + (0.273363264)^2 + (0.00008886427785)^2 \\
&= 0.07949386231[(g/(cm \cdot sec))^2].
\end{aligned}$$

$$\therefore r_{\eta_4} = 0.2819465593[g/(cm \cdot sec)].$$

$$\begin{aligned}
r_{\eta_5}^2 &= \left(\frac{\partial \eta_5}{\partial r_5} r_{r_5}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_5}{\partial \nu_5} r_{\nu_5}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_5}{\partial \sigma} r_{\sigma}\right)^2 + \left(\frac{\partial \eta_5}{\partial \rho} r_{\rho}\right)^2 \\
&= (0.08633970111)^2 + (0.01118023459)^2 + (0.270826489)^2 + (0.00008803962908)^2 \\
&= 0.08092653653[(g/(cm \cdot sec))^2].
\end{aligned}$$

$$\therefore r_{\eta_5} = 0.284475898[g/(cm \cdot sec)].$$

$\eta_1 \sim \eta_5$ の最確値および確率誤差をまとめた表が以下である。

表 12 液体の密度 ρ の測定値

n	η_i [g/cm · sec]	r_{η_i} [g/cm · sec]	$\omega_i = 1/r_{\eta_i}^2$ [(g/cm · sec) ⁻²]	$\omega_i \eta_i$ [(g/cm · sec) ⁻¹]
1	1.856451736	0.302417967	10.9341448	20.2987121
2	1.895436429	0.4740840729	4.449275208	8.433318311
3	1.856559927	0.2742957675	13.29112637	24.6757726
4	1.876565177	0.2819465593	12.57958754	23.60641593
5	1.859150900	0.284475898	12.35688617	22.97331604
sum	9.344164169	1.6172	53.61102009	99.98753498

表 12 より, η の価値平均をとる.

$$\eta = \frac{\sum \omega_i \eta_i}{\sum \omega_i} = \frac{99.98753498}{53.61102009} = 1.865055632 [g/cm \cdot sec].$$

$$r_\eta = \pm \sqrt{\frac{1}{\sum \omega_i}} = \pm \sqrt{\frac{1}{53.61102009}} = \pm 0.136575552 [g/cm \cdot sec].$$

$$\eta = 1.865055632 \pm 0.136575552 = 1.865 \pm 0.137 [g/cm \cdot sec].$$

5 考察

表 12 の $\eta_1 \sim \eta_5$ の最確値に着目すると, η_2 と η_4 が他に比べ大きかったが, η_2 に関しては確率誤差も他に比べ大きかったため, 価値平均にはあまり大きな影響がなかった. 一方で, η_4 は重みが他と度程度であったため, 平均に影響を及ぼした. このようになった原因としては, 表 8 からわかるように, t_4 の計測で軽微な測定のズレ (観測者による誤差) が混じった可能性などが挙げられる.

○参考文献

[1]

『改訂新版 物理学実験』 吉川泰三 1982年 3月発行

[2]

『「実験47. 小球落下法」 B4版配布1_20220502』